

広島市における胃内視鏡検査導入の検討について
～胃内視鏡検査専門家から御助言いただきたいこと～

1 経緯

胃がん検診については、平成27年9月30日の厚生労働省「がん検診のあり方に関する検討会」中間報告書において、検査方法として、現行の胃部エックス線検査（バリウム検査）に加え、胃内視鏡検査（胃カメラ）が示された。

これを踏まえ、平成27年度中に「がん予防重点教育及びがん検診実施のための指針」が改正される予定である。

本市においては、平成29年4月からの胃内視鏡検査導入に向けて検討を行う。

2 厚生労働省「がん検診のあり方に関する検討会」中間報告書の提言内容

区分	現行	中間報告書の提言
検診方法	胃部エックス線検査	胃部エックス線検査又は胃内視鏡検査
対象年齢	40歳以上	50歳以上。ただし、当分の間、40歳代に胃部エックス線検査を実施しても差し支えない。
検診間隔	1年に1回	2年に1回。ただし、当分の間、胃部エックス線検査は、1年に1回としても差し支えない。

3 胃内視鏡検査導入に係る本市の課題

(1) 対象年齢及び検診間隔の考え方

- 胃内視鏡検査の対象年齢及び検診間隔をどのように考えるべきか。
- 胃部エックス線検査の対象年齢及び検診間隔をどのように考えるべきか。

(2) 胃内視鏡検査実施に当たっての医療機関条件設定のあり方

- 認定又は登録の仕組みをどのように構築するか。
（広島県において検討されている研修受講の義務付け、専門医資格の有無 他）
- 二重読影の仕組みをどのように構築するか。
（施設検診、医師会所属の医院、個別契約の医院をそれぞれどうするか。）

(3) 胃内視鏡検査の実施医療機関の確保

- 調査の実施については、医師会に協力を依頼する。
- 二重読影、研修の義務付けを条件とした場合、実施医療機関が確保できるか。

4 本市における胃内視鏡検査の対象者数及び受診者数の見込

- 対象者数見込
約20万人（平成26年度地域保健・健康増進事業報告による50歳以上対象者数 192,322人）
- 受診者数見込（2年に1回とした場合）
約3万人（20万人×1/2×30.0%）

5 検診委託料の積算

- 診療報酬を基に積算を行う予定

6 今後のスケジュール

- 平成28年1月 医療機関に胃内視鏡検査導入に係る調査を実施
- 平成28年3月 平成27年度第2回広島市がん検診精度管理連絡会議を開催
- 平成28年6月 平成29年度予算重点事業として、胃内視鏡検査導入関連予算を提案